

# 平成30年度 学校評価

## 1 教育目標及び本年度の努力点

教育目標	未来を志向し、社会の発展に寄与する堅実・清新な若人の育成
本年度の努力点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個に応じた指導により生活習慣・学習習慣の定着を図る</li> <li>○ 生涯にわたって主体的・意欲的に粘り強く努力する態度を育てる</li> <li>○ 自他を愛する心、感動する心、探究する姿勢を育てる。</li> </ul>

## 2 評価結果の概要

対象	項目	具体的方策	評価結果と課題、次年度への改善策等
学習指導	学習意欲の向上と基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着を図るため、46分週35コマ授業を効果的に運用する</li> <li>・引き続き学力向上サポート事業を活用し、生徒が意欲的・主体的に授業に取り組めるよう研究する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって魅力ある授業、効果的な授業が実践できるよう、教職員に全体で問題意識を持ち、昨年度に引き授業公開を実施し、情報交換ができた。 →来年度もさらに取組を拡充していきたい。</li> <li>・ICT環境の整備、授業づくり委員会の設置など、魅力ある授業づくりに向けて取り組むことができた。 →ICTを活用した授業実践の拡充、授業公開などを通して、さらに取組を拡充していきたい。</li> </ul>
生徒指導	学校や社会のルールの遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとり登校週間の設定と日常的な遅刻指導の徹底</li> <li>・携帯、スマホの使用法とマナー、使用時間などの指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に遅刻指導を継続していることで、ここ数年はほぼ同水準で推移している。 →遅刻を繰り返す生徒に対しては、早朝登校指導により規律ある生活を取り戻継続的指導が必要である。</li> <li>・生徒指導部により機会を捉えて、携帯、スマホの使い方の指導、友人間のトラブル防止の指導、外部講師を招いての講習などナーについて啓発をしてきた。 →学校関係者評価委員会でも、保護者との連携を密にし、家庭の協力を要請するとともに、引き続き指導・啓発を継続する必要を確認した。</li> </ul>
人間としての在り方・生き方を考える教育	命・心・環境をテーマにした教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEDを中心とした心肺蘇生法実習の実施</li> <li>・「いのちの交流事業：赤ちゃんと保育者とのふれあい体験」の実施</li> <li>・新川の水質検査を年間を通して実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間で、心肺蘇生法の実習を行った。また、指導教員も1名、最新の実技講習会に参加した。 →消防署とも連携し、ユネスコスクールとして、実習の継続と充実を図る必要がある。</li> <li>・西保健所と連携して1年生の家庭総合の授業として実施した。乳幼児やその父母との交流により、命の大切さを感じる心が育成された。 →ユネスコスクールとして、引き続き関係機関との連携をとって体験事業の継続・発展を図る必要がある。 →ユネスコスクール交流会などを通して、生徒による実践の報告や発表を積極的に促していきたい。</li> <li>・総合的な学習の時間で実施をしている。継続的なデータの蓄積により、身近な河川環境の経年変化を観察することができた。また、1月に行われた「高校生科学の祭典」において今年度も実践発表を行った。 →より生徒が主体的に取り組めるよう工夫し、今後も実験の継続と充実を図る必要がある。</li> </ul>